

チェアアンパイアがつかない試合方法 (JTAテニスルールブック2010 より)

1. セルフジャッジの方法

プレーヤーが判定とコールすることをセルフジャッジと言い、以下のとおり行なう。

- 1) サーバーはサーブを打つ前、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。
- 2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチしたとき、あるいはボールを見失って判定できなかったときは「グッド」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたときは「アウト」または「フォールト」である。
- 3) 判定とコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに行なう。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出してアウト、フォールトを示し、手のひらを地面に向けてグッドを示す。
- 4) 「アウト」または「フォールト」とコールした直後に、プレーヤー自身が「グッド」と訂正した場合は、そのプレーヤーの失点となる。また「アウト」「フォールト」とコールし、レフェリーまたはロービングアンパイアによってオーバールールされた場合もそのプレーヤーの失点となる。

ただし例外として、サーブされたボールがネットに触れたあとのフォールトを、「グッド」にオーバールールされた、あるいはプレーヤー自身が訂正した場合はそのサービスをやり直す。この場合に限って失点しない。

「グッド」の判定を「フォールト」「アウト」とオーバールールされた場合は、その「フォールト」「アウト」の判定が成立する。

- 5) ダブルスの判定とコールは、1人のプレーヤーが行えば成立する。しかし、ペアの判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサービスを、1人が「フォールト」、パートナーは「レット (イン)」とコールした場合は「(サービスの) レット」となる。
- 6) クレーコートでは、相手選手にボールマークの確認を要求できる。必要であれば、相手コートへ行ってボールマークを見てもよい。相手と判定が食い違った場合はレフェリーが最終判定をする。両者が示すボールマークの位置が食い違う場合、あるいは判定できるほどのマークが残っていない場合は最初のコールが成立する。ただし、必要以上にBMIを申し出る選手には、レフェリーが適切な処置を取る場合がある。クレーコート以外はボールマークのチェックを行うことはできない。
- 7) サービスのレットはレシーバーがコールする。誤ってサーバーがサービスのレットをコールしたときは、以下の判断がくだされる。
 - ① そのコールによって、プレーが停止された場合は、サーバーの失点。
 - ② そのコールに、レシーバーが同意した場合は、サービスのレット。
 - ③ そのコールにかかわらず、プレーが続きポイントが終了した場合は、ポイントが成立する。
- 8) インプレー中、他コートからボールが入って来るなどの妨害が起こった場合は、「レット」とコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。妨害については、「試合で起こるQ&A Q11~Q16」参照。

- 9) インプレー中、プレーヤーがラケット以外の着衣・持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合、それが1回目のときは、レットをコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。ただし落としたことがプレーに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。2回目以降、落とすたびにそのプレーヤーが失点する。
- 10) スコアがわからなくなったときは、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアがわからなくなったときも同様に処理する。

再開するときのエンドとサーバーは、合意されたスコアに準ずる。ただし、ゲームスコアが訂正され、再開する場合のサーバーは、次の順のサーバーに交代しなければならない。(同じプレーヤーが2ゲーム連続サーバーにはなれない。)

- 11) 次の場合はレフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。
- ① 試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れるとき
 - ② 相手選手の言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服があるとき
 - ③ プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こったとき
- 12) メディカルタイムアウトを取りたいときは、レフェリーまたはロービングアンパイアに申し出る。トレーナーのいない大会ではプレーヤー自身が手当てをすることができるが、レフェリーまたはロービングアンパイアによって、手当てを必要とする状態かどうか確認後、その許可を得て3分以内に処置を行う。
- 13) 試合終了後、勝者は大会本部に試合ボールを届け、スコアを報告する。

2. レフェリー、アシスタントレフェリーの仕事

チェアアンパイアがつかない試合では、レフェリーが大会の規模、会場のレイアウト等の条件を考慮し、適当数のアシスタントレフェリー、ロービングアンパイアを配置する。

- ① 試合コートのチェック（ネット、シングルス・スティック、サーフェイスなど）
- ② マッチコール（試合選手の呼び出しアナウンス）をする。
- ③ ウォームアップのまえに、選手の名前、ウェアを確認し、トスをする。
- ④ 試合進行をコントロールし、円滑な試合進行のためにコートを巡回する。
- ⑤ トイレットブレイク、メディカルタイムアウトに対処する。
- ⑥ ヒートルールを採用する大会では、トレーナーと連携して対処をする。トレーナーがいない場合はレフェリー自身が必要な対処をする。
- ⑦ 必要があれば、ルール問題および事実問題についての判定をする。
- ⑧ 必要があれば、選手にラインコールの方法を指導する。
- ⑨ 必要があれば、選手の判定をオーバールールできる。
しかし選手からのアペールの後にオーバールールすることはできない。
- ⑩ 必要があれば、クレイコートでは、BMIができる。
- ⑪ 必要があれば、コード違反者にペナルティーを科す。
- ⑫ 試合終了の確認、中断の状況を把握し、試合進行の指示を出す。
- ⑬ アシスタントレフェリー、ロービングアンパイアと適切な仕事の分担をする。

3. ロービングアンパイアの仕事

チェアアンパイアがつかない試合では、ロービングアンパイアは、レフェリーおよびアシスタントレフェリーと連絡を取りながら、円滑な試合進行のために担当コート巡回し、必要に応じてコート内の問題に対応することが出来る。

- ① レフェリーに指示された仕事をする。(上記⑤～⑩も行使できる)
- ② 試合前にコートをチェックし、選手の到着を確認する。
- ③ ウォームアップ前に選手の名前、ウェアを確認し、トスをする。
- ④ 選手からのリクエストに対処する。(飲み物、ラケットの補充など)
- ⑤ 解決できないトラブル、試合結果の報告をレフェリーに連絡する。

【 大 会 の ご 案 内 】

次の大会予定は下記の通りです。

大会期日・申込締切をご確認のうえ、奮ってご参加下さい！！

大会名	日程	会場	要項発送	申込締切
第25回ダンロップ ミックスダブルス大会	8月29日～9月19日	有明テニスの森	6月30日	7月21日
第62回東京実業団 対抗テニス大会 (秋季リーグ戦)	9月12日～10月10日	各社コート	6月30日	7月21日
	決勝:10月30日～11月27日	有明テニスの森 小金井公園		

■大会日程・申込締切・大会要項（要項発送と同時に掲載）・大会プログラム及び大会の結果は実業団ホームページで確認できます。ご利用ください。

<http://www1m.mesh.ne.jp/tta/>